



整形外科

初期臨床研修

1.1 年次ローテーションの研修目標

1 年次ローテーションにおいて、救急部門 3 ヶ月枠内の 1 ヶ月に於いて、将来希望科として整形外科を選択することが出来る。整形外科入院患者を中心に担当医とともに患者診療とケアに当たり、整形外科の概略に触れ、整形外科医としての将来像を描く一助とする。

2.2 年次ローテーションの研修目標

2 年次ローテーションは、整形外科の専門性、あるいは関連診療科の専門性を見据えた診療技能を修得する研修である。

- 1) 運動器疾患に対する基本診察が出来るようになる。
- 2) 骨折疾患について、受け持ち入院患者として、自ら経験する。
- 3) 関節・靭帯の損傷及び障害について、受け持ち入院患者として、自ら経験する。
- 4) 脊椎疾患について、受け持ち入院患者として、自ら経験する。
- 5) 股関節、膝関節、肩関節などの関節疾患について系統的に身体所見がとれ、手術療法やリハビリテーションの基本的知識を得る。
- 6) 脊椎疾患について、系統的に身体所見や神経学的所見がとれて、責任病巣、治療法についてある程度言及できる。
- 7) 関節リウマチおよびリウマチ性疾患について、全身所見や局所所見がとれ、画像所見、血液検査所見を評価でき、薬物治療やリハビリテーションの基本的知識を得る。
- 8) 脊椎・四肢関節の X 線、CT、MRI などの画像診断について基本的な所見の理解、説明が出来る。脊髄造影が指導医の元行え、所見を述べる事ができる。
- 9) 骨軟部腫瘍の身体所見、画像所見について理解し良性悪性の鑑別について言及できる。骨軟部腫瘍の手術方法、切除縁について理解し手術に参加する。化学療法の適応、有害事象について理解し化学療法施行の補助的役割を担う。
- 10) 末梢神経障害について、系統的に神経学的所見がとれる。
- 11) 外科的手技についてよく理解し、皮膚縫合などを手術中に滞りなく行うことが出来る。
- 12) 医療安全について基本的な理解を深め、手術や侵襲的な検査についてその安全性や危険性についてよく理解して、上級医とともに IC (Informed Consent) を得ることが出来る。

以上 2 年次ローテーションでは、整形外科的な所見が系統的にとれることを求める。それとともに整形外科的な画像診断の基本的な理解が得られることも求める。また治療の基本を理解し、基本的な処置、手術手技ができるようになることを目標とする。さらに、上記の能力を得るために、2 年次に整形外科とともにローテーションが推奨される診療科として、

- 救急部
- 麻酔科
- 神経内科

などが推奨される。

後期研修 (専門研修 1 年目)

整形外科の 6 つの Subspeciality

- 脊椎外科
- 手の外科 (マイクロサージャリー)
- 股関節外科
- スポーツ整形・膝/肩関節外科
- リウマチ外科、足の外科
- 骨軟部腫瘍外科
-

整形外科の 6 つの subspeciality をローテーションしながら、主として病棟主治医として以下の事柄を目標として業務を行う。

- 1) 四肢関節疾患について、系統的な診察ができ、得られた所見から診断することができる。
- 2) 脊椎疾患について、系統的に身体所見や神経学的所見がとれて、責任病巣をある程度診断できる。
- 3) 得られた診断結果より、手術方法についてある程度言及できる。
- 4) 人工股関節置換術や人工膝関節置換術について理解し、術前のプランニングを上級医と相談してたてることができる。手術内容について述べる事が出来る。
- 5) 脊椎手術の基本的な手技について理解し、述べる事が出来る。
- 6) 関節鏡視下手術について理解し、基本的な手技について述べる事が出来る。
- 7) 手の外科・マイクロサージャリーの基本手技を理解し、手術内容を述べる事が出来る。
- 8) 骨軟部腫瘍の身体所見、画像所見について理解し基本的な診断ができる。骨軟部腫瘍の手術方法、切除縁について理解し、手術計画を立案し助手として手術に参加する。化学療法への適応について理解し、上級医と共にレジメン選択、有害事象のモニタリング、支持療法を行う。

「スーパー専門医」を目指そう！

専門研修以降は、京都大学整形外科関連病院と連携して、さらに数多くの症例に当たり、豊富な経験をつむ事が出来る。整形外科専門医、さらには脊椎外科医・股関節外科医・リウマチ外科医・スポーツドクター・膝関節外科医・肩関節外科医・手の外科医・腫瘍外科医などの「スーパー専門医」を目指して研修を行う。

専門医を取得するための研修が可能な、京都大学整形外科関連施設 マグネットホスピタル

- 京都医療センター
- 大津赤十字病院
- 滋賀成人病センター
- 福井赤十字病院
- 神戸市立医療センター
- 西神戸医療センター
- 倉敷中央病院
- 大阪赤十字病院
- 北野病院
- 天理よろづ相談所

これらの病院以外にも地域の機関病院が関連施設となっており、研修が可能である。